

ムラサキ

牧 幸 男

ムラサキ色の言葉を聞くと多くの人は、高貴の色と思う方が多い。紫が高貴な色になった理由は、聖徳太子（574～622）が定めた「冠位十二」（603）を制定した時が基本となっている。それぞれの官位は紫、青、赤、黄、白、黒の色をあて、その濃淡によって「冠」の色により階級を表した。当時、紫色の染料を抽出するには、手間がかり容易でなく高価で希少だったことが、要因と言われている。この時以来我が国では紫色は高貴な色の地位になった。今日でも、古希を迎えたに対して「人生七十古来稀なり」と、今後も長生きしてほしいと敬意と願いをこめ紫色で祝う習慣が残っているのはその要因によるのである。また、最高位の僧侶が身につける衣の色に、紫が使われている。特に、『万葉集』（629～759）にムラサキの植物を詠んだ和歌が15首も収載されているのは、貴重な植物にあこがれたのかもしれない。

ムラサキは、当初、染料用にのみに利用し、奈良時代から江戸時代末期まで各地で栽培が行われてきた。しかし、栽培自体も困難であったことは確かである。

明治時代になり、紫色の化学合成が可能になってから、商業的価値を失い、栽培意欲まで失われてしまった。現在は、辱物のムラサキは絶滅危惧種レッドデータブックランクに選ばれてしまった。

ムラサキは日本及び中国、アムールに広く分布するムラサキ科の多年草で、山地や草原にはえ高さ 30～60 cm、根は紫色で太く、地中に真っ直ぐのびてしばしば分枝し、その頂きから茎を出す。茎は直立し、上部は枝分かれして葉とともに斜上する長い粗毛が多い。葉は互生し皮針形で、先端と基部は次第に細まって尖り、殆ど柄がなく全縁である。6～7月頃白色の小さな花を開く。果実は球形で径2～3mm、光沢があり灰色である。根は紫色で太く、地中に真っ直ぐに伸びてしばしば分枝するが、乾燥すると暗紫色になる。



ムラサキの花



ムラサキの種子



ムラサキの根

身近に使われていたので、古くから詩歌の対象になってきた。

あかねさす 紫野行き 標野行き ^{しめの} 野守は見ずや 君が袖振る

秋になり 芽生え紫草の 苗三もと 冬こゆるさまを 日に日に守る 土屋文明

むらさきといふ 草愛し 僧侶たり 鱒多路

紫根草は ひそひそ咲きに 八幡平 文挾夫佐恵

植物名は、牧野富太郎博士は「昔から薬用または紫の染料として用い、栽培されることもある。従来用いられている漢名の紫根をあてるのは誤りで別の種である。」と述べている。また、ムラサキが群生する植物のため、「群」+「咲き」が要因、紫の染色に使うため「ムラサキ」と言う説もある。別名にはネムラサキ、ミナシグサ、紫草、牟良佐伎など利用形態を示した植物名が知られている。類似植物にイヌムラサキ *L. arvense* とミヤマムラサキ *Eritarichicum nipponicum* があるがいずれも染料にならない。

学名は *Lithospermum officinale* var. *erythrorhizon* で属名は *litthos* (石) + *sperma* (種子) で、種子が石のように固いことを示し、種小名は薬用の意である。var.以降は赤い根を示している。

薬用は『神農本草経』(250～280頃)の中品に生薬名「紫根」の名で収載され、主に染料として利用がスタートしている。北宋時代(960～1127)の科学者で政治家の蘇頌 ^{そしゅう} (1020～1101) が薬用の効能の記述したので医療用に利用されるようになった。

我が国では花岡青洲(1760～1835)が「紫雲膏」を考案し、皮膚病、外傷等の妙薬として使われるようになった。紫色が医療用の効能があるよう考えたのは、江戸時代に染めた絹を鉢巻(「病鉢巻」と呼んでいた)にして、平癒の為に頭に巻く風習が生まれたからである。

現在は、日本薬局方に収録され、抗炎症、創傷治癒の促進、殺菌などがある。漢方では、紫雲膏などの外用薬に配合されている。民間療法では、解熱、解毒、利尿、創傷治癒促進作用等に利用されている。医療用以外に、口紅や美白に効果があるなどと化粧品にも販路を広げている。

染色関係では、紫色染料の原料で、法隆寺の宝物にも染めたものが残っている。しかし、紫染色の製造は容易でなく。『延喜式』(905～967)によれば綾絹一匹*を紫に染めるには、紫根30斤、酢2升、灰2石、薪360斤を要した記述が残っている。

注*：綾絹一匹は、巻いた織物一反のこと。

ムラサキの栽培について

以前、菅平には野生のムラサキが生育していた。文献にもその記述があり、私も確認したことがあった。しかし、現在は自然生育全くない。紫栽培の要望もあり、ムラサキの栽培の専門家の長野市の佐藤策に講師をお願いし、栽培自習を行った。主催は長野県薬草生産振興組合と農政園芸産課で、薬草栽培希望者に、ムラサキ栽培の講習会を2回主催した。参加者10数名いたが、成功事例の報告はなかった。

花言葉は「永遠の愛」である。

